

連載エッセイ

essay

第6回

## 1年目の勤務を 終えて



たじのりな  
田地野 里奈

(一財)  
砂防・地すべり技術センター  
総務部 総務課

世界保健機関（WHO）は新型コロナウイルスがパンデミックに該当すると宣言して2年、社会情勢も自分を取り巻く環境も日々目まぐるしく変化した激動の年となりました。

私の就職活動はそんなコロナ禍の真っ最中で、会社説明会・選考会は全てが延期や中止となり、開催されても全てオンラインでした。オンライン上ではどうしても社員や企業の雰囲気分かりづらいため、苦悩した記憶しかありません。その中でSTC（砂防・地すべり技術センター）では対面の面接があり、実際に職場に訪問して職員の方と話すことで、これから働くイメージができたのでここで働きたいと強く感じました。

入社にあたり、管理部門の採用が私1人だったこと、そして仕事は初めてのことばかりで不安でいっぱいでした。電話を取るにも、備品の発注にも、失敗したらどうしようとする毎日で余裕がなく、1日を乗り切るのがやっとの状況でした。しかし、総務部の職員の方をはじめ、社内のさまざまな方に優しく丁寧に指導していただき、少しずつではありますが仕事内容を覚え、流れを把握し、日々の業務を覚えることができました。

入社から1年が経ち、仕事をする上で大切だと感じたことが2つあります。1つ目はメモを取ること、2つ目はいわゆる「報連相」です。日々の業務の中で電話を取ることが多く、さまざまな方からの電話に慌ててしまうことが何度もありました。そのため電話越しにしっかりお名前とご用件を伺い、即座にメモを取ることを徹底するようにしています。また指示を受けた作業に対して、まずはメモを取り、一度自分の中で整理、理解し、

不明点は質問することでミスが減らすことができました。そして仕事をスムーズに進めるためにはこまめに「報連相」を行い、認識のズレをなくすことが重要だと感じます。業務を進める中で、疑問に思うことなどは一人で不安を抱えたまま仕事をするのではなく、周りの人に報告、連絡、相談することでより効率良く、正確に進められることを学びました。まだまだ経験も浅く未熟でミスや失敗をしてしまうこともあります。上記2つのことをこれからも徹底して行っていきたいと思います。

総務部は職員が働きやすい快適な環境を整えること、社外の方の窓口になることが主な仕事であると思います。そしてどこまで対応するかという正確な線引きもなく、専門の職務として収まりきらない全ての業務を引き受ける部署でもあり、柔軟性やコミュニケーション能力が必要です。毎日違った業務、イレギュラーな対応を求められることも多く、まだまだ上司、先輩や周りの方に助けをいただいております。先輩方は誰からも頼れる存在として働かれており、私の憧れです。社内はもちろん社外の方への接し方、言葉遣い、対応とどれをとっても、私にはないプラスアルファの価値を付け加えているように思います。1番近くで一緒に仕事をさせていただいている今、受け身で指示を待つのではなく、何事にも好奇心を持ち、上司や先輩方の仕事を見て学び、どんどん吸収していきたいと思います。

オフィスのIT化、人工知能（AI）やロボット



の技術革新により、日本の約半分の仕事が代替される可能性が高いと言われています。事務職もそれらに代替されてしまうのではないかと不安もありました。しかし、実際に働く中で、単純な事務作業だけではなく人にしかできない仕事も多くあります。その中でも「私にしかできない」「私ならではのこと」をこれから模索していきたいと思います。

新型コロナウイルスの拡大により突如として私たちの生活が一変したように、今後どのような世界になるのかは誰にも分かりません。不安もありますがその一方で楽しみもあります。なぜなら入社して1年で多くのことを経験し学び、時には臨機応変な対応を求められ悩むこともありました。23年間の人生で1番成長を感じられたからです。

一社会人としてまだまだ未熟で至らない点ばかりかと思いますが、組織のため、一緒に働く全ての方々のための仕事ができるよう日々成長していきたいと思っています。